

「学習感想」を生かした読むことの学習の創造（1年次）

— 協働性の高い授業を目指して —

代表	東京学芸大学附属小金井小学校	成家雅史
	東京学芸大学国語科教育分野准教授	細川太輔
	東京学芸大学附属小金井中学校	松原洋子
	東京学芸大学附属小金井中学校	菅俊輔
	東京学芸大学附属大泉小学校	上田真也
	東京学芸大学附属小金井小学校	笥理沙子
	東京学芸大学附属小金井小学校	福田淳佑
	東京学芸大学附属小金井小学校	鈴木秀樹

目 次

1. 問題意識	38
2. 研究の目的と方法	38
3. 小学校4年生の実践（実践者：附属小金井小・福田淳佑教諭）	39
3. 1. 実践の構想	39
3. 2. 学習感想を活用した実践の実際	39
3. 3. 実践の考察	41
4. 中学校3年生の実践（実践者：附属小金井中・松原洋子教諭）	42
4. 1. 実践の構想	42
4. 2. 学習感想を活用した実践の実際	43
4. 3. 実践の考察	44
5. 考察	46

「学習感想」を生かした読むことの学習の創造（1年次）

— 協働性の高い授業を目指して —

代表	東京学芸大学附属小金井小学校	成家雅史
	東京学芸大学国語科教育分野准教授	細川太輔
	東京学芸大学附属小金井中学校	松原洋子
	東京学芸大学附属小金井中学校	菅俊輔
	東京学芸大学附属大泉小学校	上田真也
	東京学芸大学附属小金井小学校	笥理沙子
	東京学芸大学附属小金井小学校	福田淳佑
	東京学芸大学附属小金井小学校	鈴木秀樹

1. 問題意識

次期学習指導要領改訂への動向の中で、アクティブ・ラーニングや主体的・対話的で深い学びという文言が出ている。これは、今後ますます複雑化、多様化する社会に対応する知が求められているということであろう。求められている知は、新たなもしくは難しい課題に対して既存の知識をかけ合わせたり、集団で協調的に知恵を出し合ったりして構築する学びの中で育成される資質や能力とされている。

このような資質や能力を育成することは、学校教育、とりわけ教師の教育観、授業観の変革を求めるものであると認識している。国語科、特に読むことの学習では、教科書の見出しにある単元の目標をそのまま当該学習者の読みの目標として設定したり、表現活動をゴールとして目的化したりしてきた。このことは、教師の学習の組み立てが、時間数や視覚化したものを評価することを優先的に考えた教育観、授業観からきていたからではないだろうか。だからこそ、児童生徒の学びから授業を組み立てていくという教育観、授業観への転換が求められていると言えよう。

児童生徒の学びから授業を組み立てるためには、教師は、児童生徒の学びをしっかりと理解する必要がある。そして、児童生徒をお互いの学びから学ぼうとする集団にすることである。教師が、児童生徒の学びをしっかりと理解するためには、授業中の発言や表情を読み取ることとともに、授業後の振り返りである「学習感想」をしっかりと読み取ることが大切であると考え。さらに言えば、この「学習感想」は、児童生徒が自身の学びを省察したものになっていることが望ましいだろう。このように、「学習感想」を活用して読むことの学習を組み立てることは、授業での学びを学習者自身がメタ認知するとともに、一人の学びから集団の学びを形成したり、集団で学びをつないで一人一人が新たな知を構築したりする授業が創造できるのではないかと考えた。

2. 研究の目的と方法

本研究は、一般的に授業の終末に行われる学習活動である「学習感想」に着目して、読むことの学習において、児童生徒がお互いの学びから学びを深めたり構築したりする協働性の高い授業を目指すことにある。今年度は、1年目であり、小学校4年生と中学校3年生を対象として、普段の授業の中でどのように学習感想を書かしているのか、そして、学習者は友達の学習感想をどのように自らの学びに生かしているのかを分析する。それは、協働性の高まりは、集団で学びが高まっていくということであると推察するからである。先に、児童生徒がお互いの学びから学ぼうとする集団にすることの重要性を述べた。このような集団に育てる国語科の読むことの学習を「学習感想」を活用することで、どこまで迫ることができるかを探究したいと考える。

3. 小学校4年生（以下、小4と略記）の実践（実践者：附属小金井小・福田淳佑教諭）

3. 1. 実践の構想

(1) 単元名「ごんぎつね事典をつくろう」 教材名「ごんぎつね」（教育出版4下）

(2) 単元の目標

○物語の理解や想像を深めることのできる事典をつくるために、資料を集めたり、友だちと話しあったりする。【国語科への関心・意欲・態度】

◎情景描写や自然のものについての叙述に注目をして読み、場面の様子や登場人物の気持ちを想像する。【読むこと】

(3) 単元設定の理由

本学級の児童は、物語の学習において、「登場人物の心情を考えること」が最も大切であるという意識をもっている。また、文章表現よりも物語の筋の方に関心が高い。そこから、「ごんぎつね」という物語をよりよく読むための事典をつくるという学習に取り組み、文章中の言葉への意識と関心を高め、新しい読みの方法を獲得することをねらった。

(4) 単元の学習指導計画

第1次…「ごんぎつね」を読み、言葉や表現に着目して読むことをめあてにもつ。

①「ごんぎつね」を読み、初発の感想を書く。

②③初発の読みを交流し、人物の気持ちを中心に読み取ることから、言葉や表現に着目して読むことに学び方を変える。

第2次…「ごんぎつね事典」に載せる言葉や表現を見つけながら読む。

④前時の感想を交流し、事典にのせる項目を考える。

⑤ごんぎつね事典にのせる項目から、自分が担当するものを二つ選んで決める。

第3次…「ごんぎつね事典」を作り、読み合う。

⑥⑦選んだ項目から、A段落（定義）とB段落（物語に関わること）の下書きと、C段落（考えや感想）のたたき台を考える。

⑧⑨自分が担当する二つの項目のC段落の内容について、話し合う。

⑩これまでの話し合いで、内容の検討が十分でなかった点（イメージの具体化・内容の整合性など）を改めて一つめのグループで検討をする。

⑪⑫できあがった事典を読み合い、生まれた読みの変化を語り合う。

3. 2. 学習感想を活用した実践の実際

(1) 学習感想を活用する目的 一学び方を変える

第1時の初発の感想（学習感想）には、教師が人物や話の筋に寄り添った感想だけではなく、「言葉や表現」で着目したことも書くように付け加えて指示したにもかかわらず、言葉や表現への言及は2名〈資料1〉。反対に、ごんがつぐないをしていたことを一生懸命だったとか兵十に気付かれずに撃たれてしまったことがかわいそうだったという人物や話の筋に寄り添った記述は27名。両方の観点で書いている記述は4名〈資料2〉であった。本単元では、これまでの物語文を読むことの学習において児童が身に付けてきてしまった習慣である人物の気持ちを中心に読むことからの学び方の転換であったため、情景から場面の様子を想像していたり、情景描写に言及していたりする児童の感想をとりあげ、それについて意見を集めるように授業を展開した。

〈資料1：言葉や表現だけの記述〉

- C 1 植物をつかって、周りの風景を表現していてすごい。ごんが反省していることが、文や絵で表現していると思う。なぜ、最後に「つつ口から細く出ていました」と書いたのか。
- C 2 他の話と比べると会話文が少なくて一人言が多い。「思った」が多い。この村のふんいきは、植物が十種類あることから、自然が豊かであることがわかる。

〈資料2：言葉や表現とごんの両方を記述〉

- C 3 ごんは、いたずらばかりするけれど、かりを返したいと行動したと思う。季節は、くりやひがん花が出てきてるので秋だと思った。でもうなぎが出てきてるから、夏かもしれない。
- C 4 ごんがうなぎをとったことを反省して、そのつぐないを一生けん命しようとしていることがわかった。「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました」という文が、まだうったばかりということを表していて、悲しく思った。
- C 5 ごんは、いたずらばかりだけれど、やさしいきつねでもある。だんだん優しく強くなっていると思う。「人々が通ったあとにはひがん花がふみおられていました」という文には意味があるのかな。
- C 6 兵十はごんをうつ前に、よく考えればよかったのに。「とんがらし」から、昔と今の言葉が違うと思った。

(2) 学習感想活用の実際

本単元の児童にとっての目的は、「ごんぎつね」を通して言葉事典を作成することであり、「言葉や表現」に着目していくことはねらいに即して重要と言えよう。そこで、教師が投げかけから始まって、だんだんと情景描写に着目していくように展開した〈資料3：プロトコル〉。

〈資料3：プロトコル〉

- T 1 みんなの感想を読んでみて、どんなことを感じたかな？
- C 1 みんな、ごんのことをかわいそうだと思っているのは同じ。
- C 2 そんなに違いはない。
- T 2 けっこう、知らない言葉や、イメージがつかない言葉があることがあるね。
- C 3 「しだ」はじめじめしたところに生えているから、ごんがすんでいる森は、じめじめしているのだと思う。
- C 4 「なわをなう」というのは、昔の人のお仕事。
- T 3 物語の中の気になる言葉や、わからない言葉を見つけて、意味を確かめたり、考えてみたりすると、どうなるかな。
- C 5 頭の中のイメージがかわりそう。
- C 6 読んだ感想が変わるかも。

T 1の投げかけでは、児童の意識は、物語の筋や登場人物の心情に向いていることしか見えていない。そこで、情景から場面の様子を想像していたり、情景描写に言及していたりする感想に目を向ける投げかけをした。すると、C 3、C 4と植物や聞きなれない言葉が挙がり、「情景描写」という言葉が、教科書の後ろにのっていることに気付く児童が出た。「情景描写」から、T 3のように気になる言葉やわからない言葉に着目して、その意

味を考えると物語がどのように読めるかを問い、このような言葉を集めて事典をつくるということに学びの意識が向いていき、物語を読み直してどんな言葉を書けるとよいか、どんな事典をつくりたいかを考えた。〈資料4〉には、初発の感想では、言葉や表現に着目しなかった児童がどんな言葉や表現に着目してごんぎつね言葉事典を作ろうと変わっていったのか記述する。

〈資料4：着目する言葉や表現〉

- ア. ごんに関する言葉（2名）
- イ. 話のイメージや情景がわかる手がかりになりそうな言葉（季節、植物など）（7名）
- ウ. 昔の言葉（5名）
- エ. ごんぎつねを代表するような言葉や、ごんぎつねならではの言葉（4名）
- オ. 知らない言葉、聞いたことのない言葉、気になる言葉、ひっかかった言葉（7名）
- カ. 具体的でない言葉、考えても想像できないような言葉（2名）
- キ. 深い意味のあるおもしろい言葉
- ク. めずらしくて、使って楽しいと思える言葉

児童が着目した言葉や表現は、〈資料1〉と〈資料2〉にあるC1からC6の児童の観点と結びられているものがある。例えば、イはC1、C2、C3、C4と関連していて、キはC5、ウはC6と結び付いている。オ・カ・クは、言葉事典を3年生に伝えたいという相手意識から明らかにしたいという意欲が出たものととらえることができる。アとエについては、他の項目と関連するものと推測する。

3. 3. 実践の考察

学習感想を軸にした単元展開を心掛けた。最初の学習感想では、教師も児童も物語に対する関心が物語の流れや登場人物に寄り添っていることが明確になった。それは、これまでの学び方の影響があるという問題意識を共有することとなった。そのために、〈資料1〉と〈資料2〉の学習感想に見られる物語をとらえる観点が言葉や表現に向いているものに着目させることで、物語中の言葉や表現を読む観点として加えることの必要性を認識させることができたと考える。

児童の学習感想を分類・整理して一覧表にして、毎時間示した。そこから、自分と同じ考えの友達や違う視点をもっている友達の存在に気が付くことができた。また、学習感想は、漠然としたイメージであった事柄を具体的にするためのツールとしても有効に働いていた。例えば、「どんな事典にしたいのか」「どんな言葉をのせるとよいか」といった感想の交流を通して、学習の目的を明確にすることができた。

気を付けたいのが、学習感想に書かれている言葉と児童の実際との差である。話し合いの中で、自分の考えを話すことに一生懸命で、あまり友達の考えを聞いていなかった児童がいた。しかし、その児童の学習感想には、「友達と考えを伝えあうことで、よりよいものがつくれる」といった趣旨のことが書かれていた。また、言葉が先行してしまい、身の丈にあった表現にならず、詳しい説明ができなかったり、言葉が足りずに意図を十分に伝えられなかったりする姿もあった。

学習感想は、児童の実態把握や学習に対する向き合い方をみるための一つの根拠となる。児童にとっても、自分の学習を振り返ったり、位置付けたりする活動である。ただ、言葉だけで児童を見るのではなく、書いているときの姿、書くまでの授業中の姿などと合わせて見ていく必要がある。

4. 中学校3年生（以下、中3と略記）の実践（実践者：附属小金井中・松原洋子教諭）

4. 1. 実践の構想

(1) 単元名 いにしへの心と言葉を見つめる

(2) 単元の目標

○音読や暗唱をとおして、日本語のリズムのよさを実感する。

◎俳句・漢詩・俳諧紀行文のそれぞれを読み、先人の視点や表現方法を学ぶことで、自分の生き方や表現法がどうあるべきか思考する。

(3) 単元設定の理由（特に第3教材）

俳句は今や日本が誇る文化である。幼児から高齢者まで、韻文に関して初心者からベテランまで、創作ができる喜びを感じられるのは、世界を見回しても稀である。学習者はこれまでにいろいろな俳句を読み、創作も体験することで、季節を実感し、自己表現の方法を学んできた。中3ともなれば、先人の技や心を学ぶことで、伝統文化を意識したりこれからの新しい文化をどう築くか考えたりすることができるだろう。また、日本の伝統文化に多大なる影響力を持つ漢詩を学んだり、古文としての『おくのほそ道』を読んだりすることで、さまざまな文化のつながりを考えることもできる。

第3教材である『おくのほそ道』は長い間人々に愛されてきた作品の一つであるので、この文章や俳句にふれ、日本人にとって大切な文化財産であることを実感することが、国際理解学習にもつながっていくと考える。『おくのほそ道』は中学校3年間の古典学習の最後に位置づけられる。紀行文は本教材のみである。昔の人の旅の様子、またそこに生まれる思いについて、様々に考えをめぐらせたい。俳諧紀行文であることから、第1教材の「近代の俳句」との関連も持ちながら指導していきたい。また、リズムのよさに定評がある文章である。ゆえに、これまでの古文の学習同様、繰り返し音読することで、そのリズムを味わわせていきたい。

「冒頭部分」には、芭蕉の人生観そのものが語られている。簡潔な表現の一つ一つが緊張感を持ち、旅の決意とあこがれが強く語られている。学習者には、現在では予想もできない苦勞の旅であることと、強い決意があることに注目させて読ませたい。

教科書に掲載されている「平泉」は、『おくのほそ道』前半のクライマックスともいえる。前半（高館）では「変わらぬ自然の勢い」と「人工的なもの・人間の歴史のはかなさ」を対比しているのに対し、「平泉」の後半（中尊寺）では、「変わらぬ人工物への感嘆」が述べられている。松尾芭蕉がこの旅によって主張することになった俳諧の理念「不易流行」を考える際、この教材のように、「平泉」全文を読ませることは必要である。「不易流行」についてはいろいろな解説がされているが、「先師はじめて俳諧の本体を見つけ、不易の句を立、また風は変ある事をしり、流行の句変あることを分ち教えたまふ。」（去来抄より）とあるように、「不易」と「流行」の二つが備わっていることが必要ということでは一致している。学習者にも大変難しい考え方ではあるが、「平泉」の読みを通して松尾芭蕉の発見を追体験するとともに、自分の目の前にある事実やこれからの生き方の中にも、「不易流行」の考え方は応用できることに気づかせ、『おくのほそ道』の読みが現代の自分の生き方にもいかにさせること、つながっていることを実感させたい。

(4) 単元の構成（全14時間扱い）

第1教材 近代の俳句（俳句の歴史も含める）（4時間）

第2教材 漢詩（4時間）

第3教材 おくのほそ道（松尾芭蕉 作）（6時間）

4. 2. 学習感想を活用した実践の実際

(1) 通称「さりはカード」座席表型公開自己評価表) を活用して仲間と学び合い、高め合う

まず、「さりはカード」のシステムについて説明する。

右のはがき新聞は、中学3年生が4月から12月までの国語の学習の中から一つを選び、学習のまとめとなるはがき新聞を作った時の作品の一つである。学習した単元から選ぶ生徒が多い中、この男子生徒は日々の学び方についてをはがき新聞にまとめた。「さりはカード」とは何か。

これは授業者が長年にわたり改良を加えて到達した方法である。生徒向けに通称「さりはカード」と命名しているが、いふなれば座席表型公開自己評価表(ミニ・ポートフォリオ)である。

- さ→今日の授業への参加度(4・3・2・1 4段階で記す。)
- り→今日の授業に対する理解度(同上 4段階で記す。)
- は→今日の発見(簡潔に短文で記述する。)
- か→今日の一口感想(短文で記述。)
- 人→この1時間の中で心揺さぶられた人の名。

(「作者・筆者」「登場人物」「学習仲間」「教師」など。)

縦6cm×横3cmの小さな紙に、授業終了4～5分前になると生徒は上記の項目に沿ってこの1時間を振り返って書き、黒板のところにある台紙(座席表の形に枠取りしてあるので、生徒は自分の座席のところに貼る。)教員はその日のうちに縮小印刷して生徒に配布する。

「さりはカード」はこれで終わりではない。生徒はそれを次回までに読んでおき、次の授業の初めには前回の「さりはカード」への質問・分析・感想を述べる。これによって、授業がつながっていくのである。

1時間のうちに発言できる生徒数は限られるが、「さりはカード」を使えば常に全員で紙面による意見交流が図れる。自己評価の仕方も学べるし、誰が何にこだわっているかもわかる。教師から見ても学習集団の思考の流れ、傾向が分析できると共に、常に同じ場所に同じ生徒の記述があるので、一人の生徒の思考の流れを追って個別指導することもできる。ときには教師のおさえが弱いために、「さりはカード」に書かれた内容によって生徒にまだ定着していないことがわかることもある。これもすぐに分析できるので、次の授業の初めの復習場面のときにすぐに教師が対応して指導し直すこともできる。

もちろん授業中にも活発に意見交流して学び合う「仕掛け」を幾つも設定するが、全員が何らかの形で意思表示できるシステムを作ることで、お互いの読みも深まり、生徒同士の人間理解も深まっていく。仲間にも読まれるものを各自が授業ごとに書く「さりはカード」のシステムであるから、自然に授業に積極的に参加するようになるし、たとえ学習内容を忘れてしまっても、この「さりはカード」を見れば、たちどころに学習内容が生徒自身にもリアルによみがえってくる。いわば学習の再生装置ともなるので、生徒には「さりはカード」は好評である。

教師にとっても授業直後に生徒各自の考えがわかるので、次の授業を練るうえで不可欠のものとなっており、ありがたい存在なのである。

(2) 学習感想活用の実践『おくのほそ道』(6時間扱い)の実践

『おくのほそ道』の概要(文学的知識)の後、「冒頭」(芭蕉が旅に出る動機と決意を推測・想像)→「壺の碑」(不易流行の考え方や芭蕉と平家物語との関連)→「平泉 前半：高館」(変化しない悠久の自然と、変化した人

33		他では例を見ない「さりはカード」	この学校の国語の授業は、「さりはカード」というシステムを用いて円滑に進められている。授業後、小さい紙に上記の要領を記入し、提出。	三年〇組〇番
人ミ共感した人	かミ感想	はミ発見	りミ理解度	さミ参加度
さりは書き 松原つんどり戻る		この学校の国語の授業は、「さりはカード」というシステムを用いて円滑に進められている。授業後、小さい紙に上記の要領を記入し、提出。		男子
さ は か ー ど		編集後記 その日、誰がどんな考えだ。たの か知りたいた時や、 テスト前の復習に 便利で、このシス テムは画期的だと思 う。これは僕を使え ることは僕の小さ な我慢でもある。		全員分印刷した紙を もらい、家で分析。 次の授業で復習に 使われている。

間の歴史との対比) → 「平泉 後半：金色堂」(変化すべきものの中に変化しないものがあったことに気づき、芭蕉の「不易流行」の考え方について様々に考える) → 「立石寺」(推敲を続けることで芭蕉の思いが深まる様子) → 『おくのほそ道』全体を振り返り、作者の生き方・考え方に対する感想や、俳文・俳句の表現に対する感想をまとめ、発表しあうという流れで、授業は展開した。

〈資料6〉に示したのは、「平泉前半(高館)」の学習後に生徒が書いた「さりはか一ど」である。「夏草や 兵どもが 夢のあと」の読解の場面であるが、ここに、『春望』の冒頭である、「国破れて山河あり」の一節や、5月の修学旅行で飛鳥の甘樫丘にのぼって歌った志貴皇子の歌「采女の 袖吹き返す 明日香風 都を遠み いたづらに吹く」という万葉集の短歌を重ねて読み取らせた。その結果、「対比(自然対人間)(過去対現在)」「落差(昔の繁栄対現在の草原)」「つながり(今までの学習と今回の学習がどんどんつながってきて面白い。)」その他「無常観」「切れ字の効用」といったキーワードに、多くの生徒が気付いていった。大切なのは、その授業が終わってから次の授業への橋渡しの場面である(資料5)。1時間の学習の中で一人一人が目にしたのは一部であるから、学級の仲間の「さりはか一ど」を読むことで、どれだけ各自が思考を広げたり深めたりできるか、という点である。この確認の意味でも、次の授業の初めに「復習」と称して前回の「さりはか一ど」を全員で分析していくという活動が必要になってくるのである。

〈資料5：橋渡しの場面〉

次の授業の冒頭より(前回の振り返りは合計4分くらいにおさめる。)

T 1 「では前回の『さりはか一ど』分析をしましょう。まずはじめに質問はありますか。」

S 1 「A君(38番)が『見たものをそのまま書かないところがさすがだと思う。』と書きましたが、どうのことですか?」

A 「草ばかりだ、というふうに、見たことをそのまま書くんじゃなくて、今日の前にある草原に、昔の武士の戦とか都の繁栄を重ねてる。そうすることでむなしさが迫る。無常観が強く感じられるってこと。」

S (多数)「ああー。なるほど。」

←(学習感想に書いた仲間の発見を学習集団も共有し、思考を深めている場面)

T 2 「では分析はいかがでしょう。」

S 2 「『対比』を書いた人が約半分(50%)いたので、みんなの関心が強いとわかりました。」

S 3 「『つながり』とか『共通点』とか書いている人が19人いて、去年からいろいろ学習してきたことがこんなに繋がっているんだとわかったことが面白いと感じた人が多いんだなと思いました。」

S 4 「人数は少ないんですけど、『切れ字』のことを書いている人が6人います。俳句の授業で『切れ字は感動の中心』って習っていたんですけど、『夏草や』の『や』はなるほど!って思って、本当に切れ字は感動の中心なんだって実感したと思います。」

←このように、生徒は学習集団全体の傾向を分析するが、少数派の意見や発見もここで価値づけることができる。生徒が誰も気づかない場合は、教師が価値づけてあげる機会でもある。

(以下略)

4. 3. 実践の考察

「さりはか一ど」は毎時間、最後の数分で書かせ、次の授業の初め数分でも扱う。ゆえに継続が不可欠である。学習感想をしっかりと書かせることも時には必要かと思うが、このように継続を重視するならば、1回分の生徒への

負担は少なくしなければならない。そのほうが、生徒自身が学習集団の傾向を分析し、いろいろな発見をすることが短時間で出来るようになる。

「さりはかーど」システム導入時にはどの生徒も苦む。何を書いていいかわからないので「よかった」という言葉に逃げようとする。それを「どこが」「どのように」よかったのか、具体的に問うていくうちに、やがては授業が始まるや、「今日の「さりはかーど」には何を書こう?」という気持ちで授業に積極的にかかわっていく態度になる。たとえ発言はなくとも、「さりはかーど」があれば意思表示ができるから、「さりはかーど」の形で問題提起する生徒も現れる。学習集団の全員が、今誰が何を考えているかオープンにしていく授業展開であるので、教師も生徒もそれを使って授業につなげ、思考を深めたり広げたりすることができる。今日の学習の単なるまとめではなく、各自が考えたこの時間のエッセンスを自分の言葉で表現すると同時に、仲間の書いたものから積極的に学ぼう、かかわろうとする姿勢がのびるよう、教師は生徒によりそって支援していきたい。

〈資料6:「さりはかーど」一覧表〉

期 3年		組		平成28年 (2016年)		月 日 曜	
学習の内容や活動		おくのぼろ道 一平泉の前半 (高館にて)					
1女	2男	3女	4男	5女	6男	7女	8男
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	ク	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	ク	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
9男	10女	11男	12女	13男	14女	15男	16女
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
17女	18男	19女	20男	21女	22男	23女	24男
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
25男	26女	27男	28女	29男	30女	31男	32女
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	ク	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
33女	34男	35女	36男	37女	38男	39女	40男
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

5. 考察

(1) 二つの実践を通して明らかになったこと

小4と中3の両実践の特徴としては、教師が意図をもって学習感想を書かせている点である。これは、本時の「次」の展開を意識している表れととらえている。小4では、授業者が学び方を変える、読むことの学習の立場から言うと、学習者の読む観点を広げるという意図が見える。中3では、「学びの再生装置」と授業者が述べるように、授業の冒頭から友達の学習感想（「さりはかーど」）へ質問というようにして学習が展開していく。

協働性が高い授業とは、学習集団の中でお互いの学びを意識して学び合える集団を育てる要素が不可欠であろうと仮説した。その面から見て、中3での実践から、2点明らかになった。まずは、質問という形式を採っていることである。筆者も学習感想を読ませてから「何かはっとさせられた感想があるか」などと尋ねることがあるが、児童は考え込んでしまう。質問ということにすれば、その質問が集団の中で探究する問いになっていくことも考えられるので、学習感想の有効な活用方法である。次に、授業が終わったその日のうちに配布して事前読んでいるということである。〈資料6〉の一覧表を見てもわかるように、全員分となると相当な分量であり、これを授業冒頭で読むと5分は要する。お互いの学びから学ばせようとすると、深く読みこむ時間が必要となり10分程度要するだろう。そうすると、前時を再生することに重点が置かれてしまい、本時で考える時間が少なくなってしまう。筆者も小学校高学年を対象に、全員の学習感想を一覧にして授業の冒頭で読ませることがあるが、読むこととそれを分析することで多くの時間を使ってしまうことがある。キーワード化された学習感想なら本時に提示してもよいが、文章化されているものは事前を読むという手続きが必要であると再認識させられた。

小4の実践では、教師の発問がより具体的に目的に向かっていることがわかる。〈資料3〉は、中学校と同じ授業の冒頭場面であるが、児童の発言をうまくつなげて発問をしている（T2）。その教師の働きかけによって、児童にとっては意識が希薄だった言葉や表現について書いてある学習感想へと意識がいった。小4という発達段階においては、このように、教師の明確なリードが児童の気付きを生み、学習を広げていくきっかけになると言えるだろう。協働性という面ではどうか。〈資料4〉に示したように、第3時に着目している言葉や表現が、初発の感想で言葉や表現に着目していたものと13名（イ. 情景描写7名、ウ. 昔の言葉5名、キ. 深い意味のありそうな言葉1名）が共通している。学習感想だけではないだろうが、影響している部分はあると推察する。また、毎回の授業で学習感想を全員分提示していったことで、友達との共通点や相違点に気が付き、それをもとに交流が活発化していったことも学び方の進歩として小4という発達段階でも実感をしていることがわかる。このような学びの実感こそが、集団の中でお互いの学びを意識し学び合う集団となる基礎であると考えられる。

形態の差異はあるであろうが、学習感想という学習のふり返りを「学びを創るもの」として提示していくことの大切さは改めて認識することができた。そして、「さりはかーど」のように、単に学習感想という位置づけではなく、「学習の再生装置」とあるように学習リフレクションと位置付けていったほうがよいのではないかと考えた。

(2) 今後の展望

今年度は、小学校、中学校のそれぞれの学習感想の活用方法や発達段階に応じた教師の働きかけ方の違いが明らかになった。しかし、学習者自身が、どのように他の学習者の学びを活用しているかという側面までは、十分に検討することができなかったと考えている。研究の目的を学習者相互の学習感想（学習リフレクション）をいかに生かして、学習者自らの学びに反映させていっているか、その学びをどのように実感しているかを見ていきたい。